

第二章 中退理由と中退経過について

はじめに

前章に述べたごとく、中退時の提出書類の〈事由〉欄からでは中退理由がつかみにくいことがわかった。そこで、次のような方法で、中退理由を詳しく把握することにした。

中退理由と中退経過は担任指導員との面接法によって事例聴取した。

つまり、中退訓練生の直接指導にあたったクラス担任の指導員との面談を通じて、

(1)中退理由 (2)中退経過 (3)在籍中の学習状況 (4)訓練成績 (5)中退後の進路 等を聴取することにした。

聴取した中退訓練生の事例数は全国総訓から選定した15総訓、129事例である。

中退が発生した期間、昭和45年11月(1年次)から昭和47年3月(2年次)までである。

調査期間は昭和47年6月より12月である。

なお、訓練初期の事例については、聴取事例集を配布した上で、所定用式に記入してもらい方式も加えることにした。

第1節 訓練初期の中退理由と経過

(I) 身体的な問題が主たる原因

a. 病 気

<0-186(H)> 1年生4/16 広島一製図

胃潰瘍にて咯血，手術のため。

訓練生寮で深夜咯血，翌朝救急車にて病院に行き，2～3日して手術し，その経過は良好にて一ヶ月の入院後帰宅療養。

その後，連絡もなく，そのまま中退となった。

<0-195(H)> 1年生11/7 福山一機械

病的な心因反応

入校までの面接試験でははっきり認められなかったが，2日目から異常な点が出たため休校による治療を重ねたが回復の見込みがないため退校とする。

b. 死 亡

<0-131> 1年生5/28 新潟一鑄造

交通事故(トラックと衝突)による死亡

<0-147> 1年生9/8 石川-機械
交通事故にあい死亡。

(Ⅱ) 個人的問題が前面にだされた中退

a. 興味があわない、希望の訓練職種でない。

<0-164> 1年生4/15 佐賀-機械
希望の訓練職種がなく、電気工事士になりたいとの理由で、県の専修訓練校の電気工事に転校する。

<0-144> 1年生6/3 富山-鋳造
大工見習。

鋳造作業に対する信念がぐらついて、4～5月頃まではマジメであったが、だんだんいや気がさして中退。

<0-177(Ⅱ)> 1年生7/27 岩手-自動車整備
時々欠席があったが、ある時無断で四日間欠席したので家庭に連絡したところ、毎日学校に出ているとの返事であった。

後日父が学校に来て話しあったところ、本人は自動車の勉強がいやだというので、家事手伝させたいので退校させることになった。

<0-187> 1年生5/30 富山-機械
本人が機械に不向きのために中退
当校入校前には木工関係に進みたい希望であったが本人は何んとなく、機械科に入ったという。退校後大工見習として就職した。

<0-130> 1年生5/26 新潟-鋳造
木工科希望から入校試験第2面接で鋳造科に入校。転科指導、鋳造の将来性等、それに父兄からも登校してもらったり、われわれ指導員も家庭にでかけてがんばるよう要望したが性格的弱い面と意欲がないので父兄の方から引きとられたような経過である。

b. 訓練校の学科、実技についていけない。

<0-169> 1年生6/30 八幡-溶接
他人の意志通りに動く男である。学科・実技ともについていけなかった。友人もできずに訓練校を中退する。

<0-193(Ⅱ)> 1年生4/30 福山-電子
訓練生活は非常にまじめで協調性、スポーツ等他訓練生に信頼されていたが、学習内容が理解できない面が多かった。

家業を手伝うという理由で中退。

本人は音楽が好きで音楽学校志望であったこともあり、その勉強と音楽実技の練習など進学の

用意も考えていた。

家庭環境が複雑な点も一因となっている。

<0-198> 1年生9/14 福山-溶接

文字の読み書きがほとんどできず、学科の面でほかの訓練生についていられないので退校となった。

<0-200> 1年生9/19 福山-溶接

著しく学力が低く他の訓練生より劣等意識が克服できず、ついに退校せざるを得なくなった。

<0-153> 1年生8/10 石川-自動車整備

学力不足でついていけないとの申出による。

<0-152> 1年生7/31 石川-自動車整備

学力の不足でいやになり、別に簡単な仕事がしたいとの申出があった。

c. 「性格があわない」と本人が述べた中退

<0-135> 1年生9/19 長野-機械

中学の進路指導によって訓練校へきたが、内容が自分の性格に合わない。

両親と相談の上就職することにきめる。

<0-151(H)> 1年生6/19 石川-自動車整備

自身の性格と職種との不適を自覚したため中退。

<0-157(H)> 1年生9/28 石川-織機調整

織機調整科に対して性格不適のため、受講意欲を失った。

d. 勉強がらい

<0-155> 1年生9/16 石川-自動車整備

勉強することが徹底的にいやな性格で、夏休み中の惰性がぬけず、そのまま中退申出となった。

e. 訓練校での友人関係が保てない。

<0-171> 1年生4/27 八幡-鋳造

気の弱い生徒であり、訓練校に入校当初から上級生、同級生になじめず、同じクラスの悪童にいびられていた様子である。

結局訓練校の空気になじみきれず自己退校。

<0-172> 1年生5/21 八幡-鋳造

非常に気が弱く、クラスになじめない生徒であった。常に級友達からいびられて、その都度指導員に泣きついてくるという様子であった。

<0-188> 1年生9/19 広島-電工

常に反抗的であり、学友ともうまく協調できず、退校せざるを得なくなったものと思われる。

f. 高校へ進学した仲間に対する劣等感

<C-154> 1年生8/31 石川-自動車整備

訓練校の生活に順応できず、また高校へ進学した仲間との劣等感にまけたようである。

(iii) 家庭環境が主たる原因

a. 家庭経済が理由

<C-174> 1年生9/27 八幡-溶接

経済的な理由で中退せざるをえなくなった母一人、子一人の家庭である。

<C-176> 1年生5/16 八幡-電工

家庭訪問したが非常に貧しく、苦しい生活の状態のようであった。入校後ほとんど出校せず中退となる。

<C-179> 1年生5/29 岩手-板金

両親と祖父母との関係が悪く、両親が別居、祖父母が本人を引き取ったため現金収入がなく、生活が苦しいために中退する。

<C-146> 1年生7/20 石川-機械

家庭内が円満をかき、兄は独立し、次兄が養子縁組した。父母と本人だけになったが、父が病気になる家庭の収入がなくなったので本人が就職し、一家を支えなければならなくなった。

<C-190> 1年生8/16 広島-木工

家庭内での不和が学業、学友にも影響し、夏休みとともに通学しなくなり、退校もよぎなくなった。

b. 家業人手不足のため

<C-167> 1年生8/8 佐賀-板金

家業が農家であり、就農者不足のために、父兄及び本人の希望により中退する。

<C-180> 1年生9/11 岩手-板金

父死亡とかさなり、自己意識が強く、団体行動についてゆけなかった。

本人もほとんどやる気がなくなり、休みが多くなり、母親としてもこれ以上、訓練校に迷惑をかけたくないということで、自宅で経営している自動車整備工場(旅館も経営)において一人前にするために中退させた。

<C-185> 1年生11/30 広島-木工

入校以来毎日遅刻が目立ったので、注意と同時に事情聴取を行なった結果、家業(新聞会会員)の新聞配達を手伝っている状況にて対策を考えたが、人手不足にて他に配達員を補充できないために、本人がやらざるをえない状態であった。通校距離も遠方(バスで60分)にて不便である。

又、夜間高校への進学も行なっていたため身体的にも無理を強いられる状態にて、結果的に

は訓練校への通校が難しいとの理由での希望退校となった。

<0-149> 1年生4/20 石川-自動車整備
父親が病気になり、家業をつぐために中退する。

c. 父の転勤による中退

<0-178> 1年生8/28 岩手-自動車整備

父が釜石製鉄所からT製鉄所へ転勤するので本人も一緒に行くとのことであった。

本人を転校させることについて話し会った結果、父の勤務するT製鉄所に入社することが決まり、退校した。

d. 外国に行く

<0-182> 1年生9/19 広島-電子

親類がブラジルにおり、本人がそこに行くことを希望して退校する。

かなり迷っていたが、ついに決心した。

(IV) 他の教育機関に転校

a. 高校へ転校

<0-160> 1年生5/2 佐賀-電機

県立高校に補欠で入学出来る見通しがついたので転校する。

<0-161> 1年生7/18 佐賀-電機

私立工業高校に欠員があるので訓練校より工高がいいということで転校する。

<0-273> 1年生9/5 八幡-機械

訓練校に入校することは中学卒業時に就職組に編入される。自分としては進学と思っていたが他の高校進学組と比較して劣等感を強く感じたらしく、そのために夏期休暇後、直ちに私立高校に転校する。

b. 専修訓練校へ転校

<0-137> 1年生4/8 長野-木工

入校して3日で退校した。

木工に入校したが本人は建築が希望で、近くに専修訓練校の建築があったため、連絡したところ定員不足であったために転校した。

d. 受験勉強のため

<0-141> 1年生4/30 富山-板金

入校式に出席し、その後数日しか出席していないため確めたところ、本人は高校進学を希望しており、訓練校をやめる決心をしているとのことであった。

本校入校の動機は中学校の職業指導の先生が訓練校入校をすすめたため、本人もやむなく決心したのであるが、やはり高校入学をあきらめられなかった様子であった。

<0-134(H) 普通> 1年生9/17 長野-電気

進学希望が強く、やむをえず中退。

<0-184(H) 普通> 1年生4/15 広島-機械

大学受験予備校に通い、大学受験に失敗し、相当のショックを受け、仕方なしに訓練校に入校した経歴の持主である。

兄弟が公務員なので大学受験はあきらめ、公務員試験勉強のためという理由をもって退校する。技能的仕事があわず、事務系に興味を持っていたようで入校一週間あまりで退校した。

大学受験を二度失敗したが進学希望を強くもっていた。

(v) 社会的不適応

a. 校内での暴力

<0-173> 1年生8/31 八幡-鋳造

入校当時より真面目さがなくて常々指導していたが上級生を生意気であるとのことで呼出し、トラブルを起すなど不祥事が再々あり、遂に8月になって同級生を殴っていることが判明したので退校を勧告する。

c. 悪友との交流, 不良グループ

<0-189(H)> 1年生6/19 広島-電工

高校時代、悪友との交流があり、父母とのいさかいたえず、無届欠席多く、成業の見込みなかった。また、本人も学業をきらいなのでやむなく退校とする。

<0-156> 1年生8/31 石川-織機調整

中退の経過・理由。

1. 汽車通学中非行少年のグループに入る。
2. 毎日登校のために家は出るも訓練校にこない。
3. その都度、保護者に電話にて連絡問い正す。
4. 保護者に叱責されてしばらく登校するも学科がわからず意欲をなくす。
5. 入校当初、小遣銭の持たせ過ぎも関係している。

<0-174> 1年生5/8 八幡-溶接

長期欠席15日間。

私立高校生との不良グループと交遊により訓練意欲が全々なくなったので中退。

c. 家 出

<0-166>

1年生6/30

八幡一機械

家庭の内情，義母とその後の兄弟関係。

父親の本人に対する態度と行動から，感受性の強い本人は家出する。

第 2 節 訓練中期、後期の中退理由と経過

(I) 身体的な問題が主なる原因の中退理由

(a) 病気、疾患、健康不良

< C-009 (H) > 2年生 2/21 千葉—印刷

2年生9月20日より、ノイローゼ発作がおきて入院加療中であつたが、なお引き続き治療を要するので中退した。

高校を卒業してから、商店の手伝いをしていたが、転職訓練生として入校、その後高等訓練課程の2年生に転入していた。

< C-060 (H) > 1年生 12/28 新潟—機械製図

心因反応という持病があり、当校へ二回目の入校で加療しながらの勉強でした。それが発病したために中退した。

< C-086 > 2年生 9/30 石川—機械

病気(十二指腸潰瘍)治療のために中退、出席率悪く、再三父兄を招喚し、注意したがあらたまらなかつた。病気が完全治癒せず、そのほかに機械工よりホワイトカラーを希望していたことも関連あろう。

< C-032 > 2年生 2/4 岡山—自動車整備

訓練校での健康診断で、結核と診断された。そのために自宅から通院することになり、46年10月(2年生)より3ヶ月間休学期間をとり、そのまま退校となった。

休学前は寮にいたが、2年1学期に家に帰る途中、オートバイで交通事故をおこし、うしろに乗せていた訓練生に大怪我をさせ、訓練校をあげての輸血をしたことがあり、父親がその弁償をしていた。さらに父が病気がちで、家庭経済的にも恵まれていなかったことも中退に関連している。

< C-070 > 1年生 11/30 富山—機械

身体が弱いために中退。

本人は学びたい気持があるが身体が弱いために欠席が多くなり、皆について行けないので退校した。本人は先に当校機械科に一度入学したが身体の都合で退校し、再び入学していた。

< C-043 > 2年生 5/20 岡山—ブロック建築

意志が非常に弱く、欠席が多い。(1年次の欠席は82日)

身体も弱く、よく後頭部が痛いと訴えていた。鼻がつまったような声をだしていた。精密検

査もしたがはっきりした原因はわからなかった。

(b) 災害

<0-056> 1年生11/30 新潟——溶接

負傷のため作業継続不可能

アーク溶接の光による眼の障害を起し、医者に治療してもらい、今後について相談した結果体質的に合わず、失明の恐れもあるとのこと。両親との協議のすえ、継続して溶接作業に従事することは不可能と断定、進路変更をすることに決定、中退にいたる。

(c) 交通事故

<0-042> 2年生3/16 岡山——ブロック建築

2年生夏期休暇中に、単車で交通事故をおこし、約6ヶ月間入院加療していたが、2年次は一学期のみ出席で留年となるために、3月退校した。

<0-051> 2年生9/30 愛知——木工

2年生7月に単車で交通事故をおこし、病院に通っていた。この間に遊びぐせがついてしまったのではないだろうか。

1年生ではまけん気でまじめであったが、2年生になって欠席が多くなっている。

本人は木工にのり気ではなく、家人のすすめで訓練校を選択したらしい。

母子家庭であり、経済的にも問題があったかもしれない。

<0-055> 2年生2/1 新潟——仕上

交通事故により作業継続不可能

1年次3月にバイクによる交通事故のため脳挫傷頭蓋骨骨折、左大腿骨骨折により、3ヶ月入院加療のため46年4月1日より休学、その後引き続き加療を続けていたが身体状況はやや以前に快復したものの1年間の空白もあり、視力障害等も残ったため復校して訓練を受ける意志もなくなり、退校した。

<0-128> 2年生6/28 京都——自動車整備

1年生7月交通事故、左足骨折(6ヶ月間)12月末に休学願がだされる。

4月より再度入校。

6月上旬より外泊する機会が多く、父兄より連絡を受ける。欠席も多くなる。

6/28、東京へ就職することを理由に中退した。

(d) 死亡

<0-013> 2年生6月 山口——自動車整備

自分の運転していた二人乗り単車で事故をおこし、死亡している。

<0-058> 1年生9月 新潟——木工

帰宅後、友人（高校生）のバイクの後に同乗して走行中道路わきにおいてあった車に追突して振落され、頭を打ち、意識不明のまま約10日後死亡。

<0-103> 2年生11月 八幡——溶接

不良グループの喧嘩で殺傷される。

<0-012> 1年生3/18 山口——機械

1年生1月初旬、訓練生4名でボンド遊びをしているところを発見され、警察に補導されている。そのグループのうち他の2人が家出し、その2人に誘われて行方不明となっている。

退校直後、4月初旬に単車交通事故で死亡。

(II) 個人的な問題が前面にだされた中退

(a) 学科、実技共に著しく劣った事例

<0-053> 1年生3/20 愛知——塗装

遠い自宅から通校するのが一人ではやっとなという様子であった。例えば、汽車の時間が違うといつまでもホームに立っているくらいであった。

入校時にこのままでは就職もできないので仕事はともかく、おいてくれないかということで職員の紹介で入った。

いつもひとりぼっちで、頭をさげて元気なく、他の人に話しかけられてもだまっていた。友人からからかわれることも多く、自分でなすとげたものはなかった。

<0-033> 2年生8/26 岡山——板金

知能が低くて訓練についていけなかった。そのために欠席が多くなった。（2年1学期——34日、遅刻——21回）

家族に連絡したが、欠席はあらたならず、退校となった。

<0-069> 1年生12/18 長野——木工

実技の遅れがめだって来てから登校するのが、いやになり、11月、12月頃から休みが目立って来た。休み理由は知人の板金等のアルバイトや友人と遊び歩いていたようだ。

以上のことから理由としてあげられれば、根性のなさや周囲の誘惑に負けたようだ。

<0-050> 1年生3/20 愛知——木工

1年時の実技成績があまりにも低かった。木工科には機械作業があるので危険であった。

父兄をよんで、ブロック建築科をすすめた。ブロック積みという単純な仕事ならやっていたことはないが、物を作るということは無理と考えた。

<0-054> 1年生3/31 愛知—塗装

訓練についていけないので訓練校側からやめてもらった。

友人にいじめられやすい性格で人々に反抗するだけの頭がない。礼儀だけは正しかった。

入校時に、中学校の先生と父兄がみえて、そのまま就職させるのはかわいそうなので、職業訓練校に入れてほしいという要求であった。中学校では特殊学級生である。

(b) 興味がなく、希望の科ではない

<0-084> 1年生11/30 石川—機械

自動車に興味をもち、機械科にはあまり興味がなかった。いきおい欠席がちとなり、非行に走るようになった。父兄と相談し、本人の好む自動車関係会社に就職した。

<0-063> 1年生3/22 長野—電気

電気関係より自動車科に入りたく思っており、バイク自動車がすきでたまらず、バイク屋に就職した。

<0-059(H)> 1年生11/28 新潟—製図

軽い程度のトレースを習う気で入校したらしく途中休んだりした時訓練内容等活して気持ちを入れかえてやってみなさいということを行い、しばらく通ったがやはり決心がぐらついてやめた。

<0-005> 2年生7/31 千葉—塗装

頭は悪くなかった。しかし、訓練校での生活になじんでいけなかった。本人は職種があわないと考えていたらしい。一定の時期まではついてきたが、担任および父兄の説得にもかかわらず無理であった。

入校時に、自動車整備科あるいは板金科を希望したが入れられず、それ以外はいやだという意志が強かった。

<0-123(H)> 2年生11月20 福山—電気

入校時、電子科希望であったが定員いっぱい電気科へ入校。しかし、本来電子関係が希望で当初よりやる気がなく、意欲喪失で、今後電気科で訓練を受けることは無理と判断する。

<0-044(H)> 1年生11/30 愛知—電子

電子計算機をめざしていたのであるが、訓練校にはコンピュータもないのでこれに失望したらしい。

夜間コンピュータ学校にかようようにすすめたが、実現できないようである。

<0-072> 2年生6/9 富山—板金

第一志望が自動車整備科、第二志望が板金科で面接の結果、本人同意して板金科に決めた。本人の体格は超肥満体で83Kgもあり、体操が苦手でいろいろ理由をつけてよく休んだ。

家との交通の便が悪く入寮生活を始めたが寮生との折合いが悪く寮生から敬遠されていた。科においても同様に上級生とつきあっていた。

<0-007(H)> 1年生2/4 千葉—自動車整備

本人は自動車について勉強したいということで入って来たが1年生2月に急にやめたいと言ってきた。

やめる理由ははっきりとは言わなかったが、1年生では学科、実技ともに基本であり、本人の希望とかなり食い違っており、それに失望したのではないかとも思われる。

また、自動車に対する興味でも車の下に入って汚れる修理屋よりもスポーツメカニックに興味をもっており、はなやかさを追っていたのではないかと考えられる。

学科、実技とも上位であった。

入校動機について親からの言葉によれば、本人自身の考えで志望したのではなく、親側の進めにより入校志願した。高校を終わったが行くところがないので、とりあえず訓練校を受験したものである。

(0) 「不適性」と本人が言った中退

<0-113> 1年生2/26 広島—機械

本来機械に向かず建築デザイン、美術等に興味を持っていたようで真面目によく努力するも学科、実技共に成績ふるわず。

訓練校入校時より父親が病気療養中にて、本人もかなり考えていたようで(経済的理由)また家庭内にも問題があり、バス会社に就職試験パスして後退校を申し出た。

なお定時制高校に受験合格して、働きながら(バス車掌)勉強するとのことである。

<0-118(H)> 1年生3/18 広島—機械製図

機械製図をやっけてゆくに不適性。

1年間訓練したが欠席も多く、また途中父親が怪我をして家業(かきの養殖)を手伝いをしたりで成績もはなはだ悪いために、年度のかわる時期に本人にも納得させて中退させた。

<0-120(大卒)> 2年生9/18 福山—電子

叔父の経営する会社に夜は働きながらの訓練状態であったが、勉学と勤務との両立が困難となり、両親、叔父とも相談の上、本人の電気への不適性も考慮の上、中退を決心する。

<0-027> 1年生2/10 岡山——機械

本人が言うには、機械が性に合わないということである。(指導員からみて性に合わないとは思わなかった。)

「もうやめるんだ」とよく言っていた。

「親をよんでこい！」と言ったが結局、親は一度も来なかった。

父の姓字が違っており、家庭的に問題があったのではないかと思う。

(d) 大工になりたい 6)*

<0-082> 2年生3/10 富山——木工

46年3月5日(2年生)突然退校したいと届出があったのでよく調べて見ると大工さんになりたいと言うので、一応家族に来てもらうように言ったところ祖母が3月10日来校、「近所に大工さんがいるのでそこで本人が働きたいというので退校させてください」と強く希望された。教導としては、大工さんは夏は暑く、冬は寒いことやいろいろと大工さんは家具工よりも苦勞の多いことも話したが、一向に耳に入らないようであった。

本人は母と祖母との3人暮らしで従順ではあるが何事も消極的ではっきりせず学科、実技ともに著しく悪かった。

著しく不器用な訓練生であった。

<0-080> 2年生2/9 富山——木工

木工よりも大工になりたい。

12月中旬頃より実習等における態度が著しく悪くなり、ストーブの周囲で暖を得るのに血眼となっており、再三注意するもかえって反抗的となり素直さが見当らなくなった。

2月9日、突然退校願を出し大工になりたいと伝えてきた。家の両親もそれを望んでいた。大工の定時制学校に通うといていた。2月13日父兄来校し、いろいろ相談したが大工見習として就職先も決定しているので退校はやむを得ないものと思っている。

<0-040> 2年生5/31 岡山——塗装

大工になるということで中退した。父親が大工になれと言ったらしい。

2年になって欠席が多くなり、欠席しないように注意しているやさきであった。

(半年後来校し、自動車塗装をやっていた。)

(e) 工業的領域に興味がない

<0-023> 2年生12月 鳥取——自動車整備

ともかく自動車整備には興味がなく、一日もはやく社会にでて金が儲けたいといてやめた。

* 6) 訓練生本人にとって独立自営の可能な職種として大工に魅力をもっている事例が多いので項目を加えた。

友人の漁師が時折、よい格好で帰ってくるので、その気になり、漁師になるということをやめた。家人は家族会議を開いて本人をそのまま訓練を続けるように説得して、祈とう師までよんで拜んでもらったが効果はなかった。

<0-107> 2年生9/10 岩手—木工

夜、朝、アルバイトをしながら学業をしていたが商人になることを志し、中退した。

本人の意志の変化ということであるが、本人は修了後会社勤めをしなければならないと上役の指示にしたがわなければならない。それをきらい、自分で自分で仕事をやりたいとのことで、酒店経営のため、まず酒店で働きたいと手紙でいつてきた。

(Ⅲ) 家庭環境が主たる原因の中退

(a) 家庭経済が訓練への通校をさまたげる事例

<0-015> 2年生4/30 山口—溶接

母子三人ぐらしである。母と姉が働いており、本人も新聞配達をしていた。しかし、家庭経済が続かなくなり、男としての責任からやめたのではないかと思われる。

<0-022(H)> 1年生2/18 鳥取—自動車整備

彼は高卒であるが、同じクラスの中卒2年生とケンカをして敗けたのが腹立たしかったらしい。高校を卒業してから訓練校に来ていることについて何か言われたらしい。

また、背景としては家からの経済的援助が乏しかったこともある。

<0-102> 2年生8/23 八幡—溶接

実技において常にトップクラスであった。意志が強固であるがゆえに、家庭経済が悪い(生活保護家庭)のを気にしていた。

卒業まで待つて就職をするように勧めたが効果はなく、中退した。

<0-031> 2年生8/28 岡山—仕上

家庭の経済的事情が主な原因である。父母は共働きをしており、祖母、兄弟など家族が多かった。経済的にも家事にも自分自身でやらねばならなかった。

夏休み期間中に、給食屋にアルバイトに行き、その後、欠席していた。欠席理由としては、胃潰瘍という医師の診断書がだされていた。

<0-129(H)> 2年生4/8 京都—電気工事

本人は大分県出身であるが、経済的に2年訓練は最初から断念していた。また、2年間の訓練は無意味であるという考えももっていた。さらに、実技さえ出来れば学科はできなくともよ

といった考えであり、訓練も実技はよくやるが学科は不熱心であった。

(b) 父の事業の失敗

<0-008> 2年生4/14 千葉—印刷

父親は落花生の菓子製造の事業をやっていたが、その事業がうまくいかなかった。4月13日(2年次)に父親が来校し、退校させたい旨申し出があった。

本人はまじめで、他人に好かれる性格なので本人の将来のために、ぜひとも出席、受講させ、印刷技能を修得させるように説明したが、本人も退校して家計を助けたいという意志が固いためやむなく中退ということになった。

(c) 父親、兄など保護者の病氣入院

<0-116> 2年生3月 広島—自動車整備

2年次になってから欠席がめだちはじめ、2学期が過ぎてから長欠があり、家庭訪問したが、本人にも両親にも会えなかった。そこで文書連絡をしたところによると、父親が長期入院し、母親がつきっきりで見ているとのことで、親と子の対話が無い状態であった。

本人との話し合いの機会がつかずに持てず、数回親へ連絡し、最終的に訓練に対する興味なしと認め退校届の書類を送付した。

<0-104> 1年生2/16 八幡—溶接

彼は長男である。本人の家族は6人家族で父親が出稼ぎで家計を維持していたが、父が病気で3ヶ月位通院しており、収入が途絶えてしまった。ゆえに、中退せざるを得なくなった。

<0-085> 1年生2/13 石川—機械

収入源であった兄が交通事故のために入院し、無収入となり、さらに事故の相手方への弁償問題とかみ合せ、家族会議を開き、本人に納得させ、中退させることになった。

(d) 家庭の諸事情

<0-026> 2年生11/25 岡山—機械

〇電力の小会社に就職希望をだしたところ、本籍が韓国では採用できないといわれた。父親に相談したところ、父から〇社不採用の件は卒業まで本人に伏せておいてくれるように依頼されたが、(担任教導としては)本人に事実を伝えぬわけにもいかず、父親から本人に話してもらった。

その結果、途中で訓練校をやめることになった。

<0-036> 2年生5/13 岡山—溶接

家庭の状況がおもしろくない。また、勉強が大嫌いということで就職した。

父親がアルコール中毒で酒がきれると正常な判断ができなくなった。また、身体的にも病気がちであった。父母は別居していた。

生活保護費できている。訓練生寮に入りたかったが、生活保護費などの金が入ると父親が飲んでしまうので、寮に入れず家からかよっていた。

中退直前に、父親が訓練校にきて、「ここをやめさせてくれるな」と言っていた。定期的に金が入らなくなるからだろうと思われる。

(e) 親戚、近親者の工場人手不足のため

<0-064> 1年生8月 長野—機械

叔父が横浜で板金(プレス)関係の仕事をはじめ、そこで働きながら勉強するという理由でやめている。

非常に優秀な訓練生なので我々(教導)も残ることを望んだけれども家庭が母子家庭のこともあり、本人もかたい決意なので中退を認めることにした。

<0-028> 1年生11/11 岡山—機械

叔父が姫路で溶接工場をやっているの、そこで働くということでやめた。叔父の工場の人手不足が深刻になり、ひき抜かれた型である。訓練を継続するように指導したが、親もその意志が強かったので中退となった。

<0-068> 1年生9/29 長野—木工

入校以来、元気よく訓練に励んできたが、兄の経営する食堂に人手がたりなくなり、やむなく中退する。

<0-057> 2年生5/18 新潟—鑄造

一年生の時は真面目でよく頑張った。2年生の始業式時点から義兄が東京で水道工事を営んでいるので、縁故就職したい旨、本人から申出があった。そこで父兄に登校していただき事情をきき退校をとどまるよう要望したが、本人の意志がかたく父兄の説得もなく退校にいたる。

(f) 家業である農業を手伝うため

<0-092> 2年生4/24 佐賀—板金

家庭が農業であり、就農者不足のため、父兄及び本人の希望により中退する。

<0-093> 2年生9/20 佐賀—板金

<092>と同じ

<0-108> 2年生7/18 岩手—木工

家庭の事情により、欠席がちであった。

父と兄が出稼ぎをしているので家事の農作業を手伝うためにやめた。(田-12アール、畑18アール)女手と共に働く。手すきは他家の農事を手伝うということである。

(g) 家業を手伝うため

<0-094> 1年生3/30 佐賀—板金

自宅が小さい鉄工所を経営しており、人手不足のため家事手伝いということで、本人、父兄の希望により中退する。

<0-077> 1年生2/28 富山—鑄造

父が鑄造工場を営んでいるため、普通高校を卒業した彼に、父が鑄造作業の基礎的訓練を修得させる目的で1ケ年をきめて訓練を受けさせた。

<0-089> 1年生3/20 佐賀—電機

1年間訓練を受けたのち、将来、家業の塗装業を継がなければならないとのことで退校する。

(IV) 他の教育機関に進路変更

(a) 高校へ進路変更

<0-117> 1年生3月 広島—自動車

年度末近くに訓練校に顔を出さなくなり、親元へ連絡し、母親と本人と一緒に来校しての話では、本人が昼間の高校でどうしても勉強したいので訓練校をやめたいとのことである。欠席したのは受験勉強のためであった。このようなわけで、本人の意志を尊重し、退校ということになった。

<工大附属高校入校>

<0-087> 1年生3/15 石川—板金

3月になって突然、高校へ進学したいからとの理由で中退する。考えられることは兄が高校へ行っている関係ではないかと思われる。

<0-090> 1年生3/23 佐賀—機械

一年間訓練を受けた後、将来家業の農業を継がなくてはならないとの理由で、農業高校に進学する。

(b) 大学への進路変更

<0-020> 1年生3月 鳥取—電子

大学受験を志し、落ちたら再び総訓にくることで中退。

訓練校では、原理・原則を無視して実習しているが、〈なぜか〉を知ってから、それを使ってみたい。物を作ることがかならずしも必要であろうか。生徒にとって応用実習はやらなくてもよい。総合実習は必要である……などの訓練校に対する期待はずれも中退の一つの理由らしい。

兄が大学を本年卒業するので経済的にもよく、本人も定時制高校が終るのでこの機に大学進学を考えたい。

<0-122 (H)> 1年生12/25 福山—電子

訓練校に入る前に考えていたことと入校してからの状況が違っていた。

自分はコンピュータについて積極的、かつ深く勉強したかったが、訓練校では導入程度しか出来ないことに不満を持ち、退校、進学という道をとった。

(c) 公務員試験合格

<0-127 (H)> 2年生7/14 京都—電子

公務員試験合格。就職先内定(京都大学事務官)と同時に退校する。

(V) 「社会的不適応」*

(a) 校外で警察さたとなる

<0-030> 2年生9/30 岡山—仕上

素行不良、他校の高校生と暴力事件以後、欠席が多くなった。家庭にその欠席を連絡すると「そのようなことは連絡しないでくれ」ということであった。その後、家からの連絡で、暴力事件のしかえしが恐しくて欠席が多くなっているが、やめさせたいと言ってきた。

<0-047> 2年生1/30 愛知—機械

暴力事件、他校の高校生をなぐった。

道の行きちがいで、“どけどかない”からケンカとなり、相手をなぐった。相手が裁判所に務めている子弟で手続きがはやく、大きな事件になった。本人は“こんなことはどこでもある”とって反省はなかった。

<0-024> 2年生6/28 鳥取—電子

一年時高校生の友達とバス待合所のコインロッカーを無断で使用し、バス会社より連絡を受ける。また、2年時に高校生の友達とパチンコ店に入り、補導される。さらに、無断で友達と就職をさがしに京都へ3日間家出事件をおこした。その時、本人及び父兄を招喚し嚴重に訓練課長、担任より注意したが、よくなる傾向が認められないので退校処分となる。

<0-048> 2年生5/14 愛知—機械

窃盗事件、および“あて逃げ”で警察沙汰になり退校処分。

* 「社会的不適応」は前出四群と分類基準はことなるが、訓練校で問題視されることが多いので特に分類群に加えた。

友人の盗んできた自動車を3,000円で買って、その車で“アテ逃げ”をした。

(b) 家出、行方不明

<0-062> 2年生1/25 長野—電気

長野にすることがいやになり、家族に無断で東京へ家出した。家族より警察に届出がだされ、東京の寿司屋にすることが判明した。すぐに引取りに行ったが、本人は帰らずそのまま就職した。

訓練校でも別の就職がきまっていた。

<0-049> 2年生5/17 愛知—機械

2回目の家出。父兄から所在がわからないから、中退させるという申し出があった。

親のところには、本人から「心配するな。元気だ」という電話があったそうである。

家出の原因ははっきりしないが、「頭髮を切れ」ということで親と口論になったこと、また、兄と弟が高校に行っていることから、兄弟がかまってくれなかったらしい。本人は小・中学校では兄弟中で一番成績がよかった。

彼は高等学校に入学したが、友人をなぐったことからリストにのせられ、高校にいらなくなって1年でやめている。それで行くところもないので訓練校に来ていたことも原因している。

<0-011> 1年生2/19 山口—機械

一年一月初旬、ボンド遊びで補導される。

その後、訓練校同級生2名で行方不明となり、土方をしていた。その後、場所をかえて仕事をしている時に、「訓練校でもう一度やらせてほしい」と担任教導に電話があった。その一週間後、他の友人を誘いだして再び行方不明となっている。

<0-010> 1年生2/19 山口—機械

同級生と行方不明となり、退校処分。

(c) 無断外泊

<0-034> 2年生6/28 岡山—板金

1年修了時で出席率は57%でかなり欠席が多い。欠席しないように注意し、なおらなければ退校処分にする旨伝えた。

5/21、父兄から電話連絡があり、以後はまじめにやるのでということであったので通校を認めた。しかし、6月に入っても出席が悪いので家に連絡したところ、6/28、素行があらたまらないので訓練校をやめさせると言ってきた。父兄がさじをなげた感じである。

中学時代の悪友がいて、自宅には小遣銭を取りにいく程度で帰らず、その友人の家に泊っていたらしい。

<0-109 (H)> 1年生1/11 広島—電子

勉学意欲とほしく、出席状態がかなりよくないので家族と相談の結果、退校とした。

家にも帰らず、友達とよく遊びまわっていた。だんだん訓練校の欠席が多くなり、学習意欲を失ったらしい。

<0-115> 1年生2/8 広島—機械

茶目気のある小柄な生徒であるが訓練校入校後、中学時代の同級生で市内私立高校に通う友人達にさそわれ、家は毎日出ているが登校せず、繁華街その他にて遊んでいたようである。欠席・早退を繰返し、勉強意欲に欠け、再三の指導・注意・家庭訪問・保護者との話し合いなどにもかかわらず改心のあともなく、やむなく退校する。母子家庭にて本人もその立場をよく理解し行動していたようであるが、一面むら気・移り気・ずるさがあり、落ち着きがなかった。

<0-018> 1年生3月 山口—木工

根本的なところから、なおさなければならなかった。母子家庭でわがままにこりかたまっている。これをなおすには長い時間が必要であったろう。悪いことをしても悪いとは思わない。反省するところがなかった。

先生が注意しても聞き入れないし、宿題を出さない。無責任もはなはだしい。

さらには、家に帰らず、一週間も友人の家に泊っている。

その上、無免許で警察につかまった。

学習する態度はみられず、先生が言ったことを「すぐに言ってみ！」といっても、「知りません」と答えるなど、教導としては手のつけようがなかった。

(d) 校内での暴力事件

<0-014> 2年生4/27 山口—板金

同級生とのケンカ、下級生への暴力で退校処分。

注意を聞かないし、勉強はしないし、反抗的なので訓練校においてもダメだと思った。

<0-017> 2年生6月 山口—木工

喫煙、暴力行為で退校処分。

事件後、退校になるとき、父親と帰りながら、涙を流していた。

<0-016> 2年生6/19 山口

暴力事件、始末書3回。

<0-105> 2年生5/7 八幡—鑄造

入校時より態度にふてぶてしいところがあり、暴力事件をおこすこと2回、その間他人のバ

ンドと自分のバンドを交換して着用する等の問題をおこす訓練生であった。

担任の熱心な指導により、その後、学校での問題はなくなり真面目にやっていたが、2年に進級直後、訓練生寮において暴力事件を起し、父兄を呼び退校を勧告する。

<0-038> 2年生4/23 岡山—塗装

訓練生寮における暴力事件

暴力事件の内容ははっきりおぼえていないが、おそらく下級生への暴力であろう。始末書を書かせられたので、自分でいやになり、やめていったのではないか。

<0-045(H)> 1年生1/28 愛知—機械

暴力事件、2年生をなぐった。

訓練中に流れ作業をやっているとき、手すきになって、なにか品物をもってこいと言ったが、持ってこなかったの、その相手をなぐった。相手は2年でも年令的に下になるのに言うことを聞かないのがおもしろくなかったらしい。

謹慎処分にしてしたが、父兄が来校しないので、退校処分となった。

機械工になることについて父兄の理解がなかった。

また、通校に長時間を要していたために、欠席、遅刻が多かった。

(f) 喫煙違反

<0-083> 2年生7/12 富山—フライス

入校時、長髪にヒゲスタイル。夏休み以後頭髪違反・欠席・遅刻が多くなる。

12月会議室でタバコをすっているところをみつかると、父兄招喚、誓約書。

服装のみだれ、帽子をかぶらなくなる。

1年次で退校してはどうかともちかけ、その時は改心してやることになる。

2年生4月13日他科でタバコをすう。6月以後サンダルバキで登校注意するも、6月4日通学途中、汽車の中で喫煙、補導される。

生活指導委員会、職員会議により自己退校とする。

<0-019> 2年生6月 山口—木工

タバコ違反で3回注意。1回目に手をついてあやまった。2年生にすすめられたのが起因、タバコ違反注意が3回となり停学。

寮内で1年生に暴力をふるい、金品をまさあげたこともあり、家に帰っても母親に相談することはなく、中退となる。

<0-002> 2年生9/18 千葉—板金

先生の前ではわるいことはしないが、訓練生寮で友人にシンナー遊びをさせた。その寮内の

不祥事件以後強く反省を求め、日常の訓練を通して、積極的に指導してきたが、たまたま授業の態度も悪く、注意してもかえって反抗的になるので退校させた。

< C-101 > 2年生 8/12 八幡 — 溶接

長期欠席。1・2年を通じて喫煙の常習者で父兄にも4・5回連絡をし、本人の更生をまいったが、暴力事件を起し依頼退校の処置をとった。

< C-052 > 2年生 9/15 愛知 — 塗装

時々ケンカをしたり、喫茶店にいたり、タバコをすったりして素行不良の面が多くあり、訓練校側でしめつけた。その結果、本人がいやけをさしてやめた。

(e) 校則違反

< C-125 (H) > 2年生 5/12 福山 — 電気

校則違反(訓練校則抄6退校(2)-(一))

昭和46年の一連の学内紛争中の自治会役員選挙のポスターの件に関しての校則違反。

< C-119 (H) > 2年生 5/12 福山 — 電子

昭和46年の一連の学内紛争中の自治会役員選挙のポスターの件に関して自主退校。

< C-126 (H) > 2年生 5/15 福山 — 自動車

訓練時間数不足のため。

昭和46年の校内紛争に、自治会役員選挙ポスターの件に関して校則違反する。

(g) 授業態度悪く、訓練生活不良

< C-046 > 2年生 11/9 岡山 — 機械

先生の指示にしたがわない。一つの作業を指示しても反対のことをやる。2年になってからは一層反抗的になった。中学時代から先生のいうことはきかなかっただけらしい。

欠席はなかった。休まないでくれば修了できると考えていたらしい。

ノート・教科書は持ってこないし、授業中イビキをかいて寝ていたし、注意することもできなかった。

< C-021 > 2年生 6月 鳥取 — 機械

学校の規則では自動車の免許取得について許可制にしている。しかし、自宅に自動二輪があるのを内緒で普段乗って見つかри、処分を受ける身となった。

さらに、忘物等多く、レポートの提出等で期間を遅れること多く、注意が重なり、併せて実技の結果が思わしくなく負担が大きくなったのではないかと思う。

やめていく時はむしろ喜んでいる様子であった。

<0-121 (H)> 1年生2/9 福山—電子

他の訓練生の訓練生活をかき乱すような行動で目にあまるものがあり、いくら注意しても反省の色が見えないので、他の訓練生の影響も考えて退校処分。

<0-025> 1年生11/10 岡山—機械

頭髪を染めてくるなど不良傾向があり、全々なおそうとしなかった。直接の中退理由は二人乗り単車で交通事故をおこし、相手にケガをさせたことである。親をよんでひきとってもらった。

(h) いずらくなって中退

<0-110 (H)> 1年生3/31 広島—電子

弟が本校に入校しており、その弟が盗難事件をおこし、それを気にやんで退校する。

<0-037> 2年生12/6 岡山—鑄造

本人は友達と協調しようと努力している様子であったが結局仲よくやっていけずにやめた。退校の直接理由は寮での盗難事件のとき、舎監より圧力がかかり、やめざるをえない状態になってしまった。

第3節 ま と め

1) 中退理由はあらかじめ設定した区分におおよそ適合することがわかった。

つまり、第24図のごとく、中退理由は第Ⅰ群から第Ⅴ群に分類できる。

各群ごとの内容を詳細に記述すると次のようになる。

第Ⅰ群<身体的な問題が主たる理由>の群としては、㉑ 病気、疾患、健康不良、㉒ 負傷、㉓ 交通事故、㉔ 死亡、である。

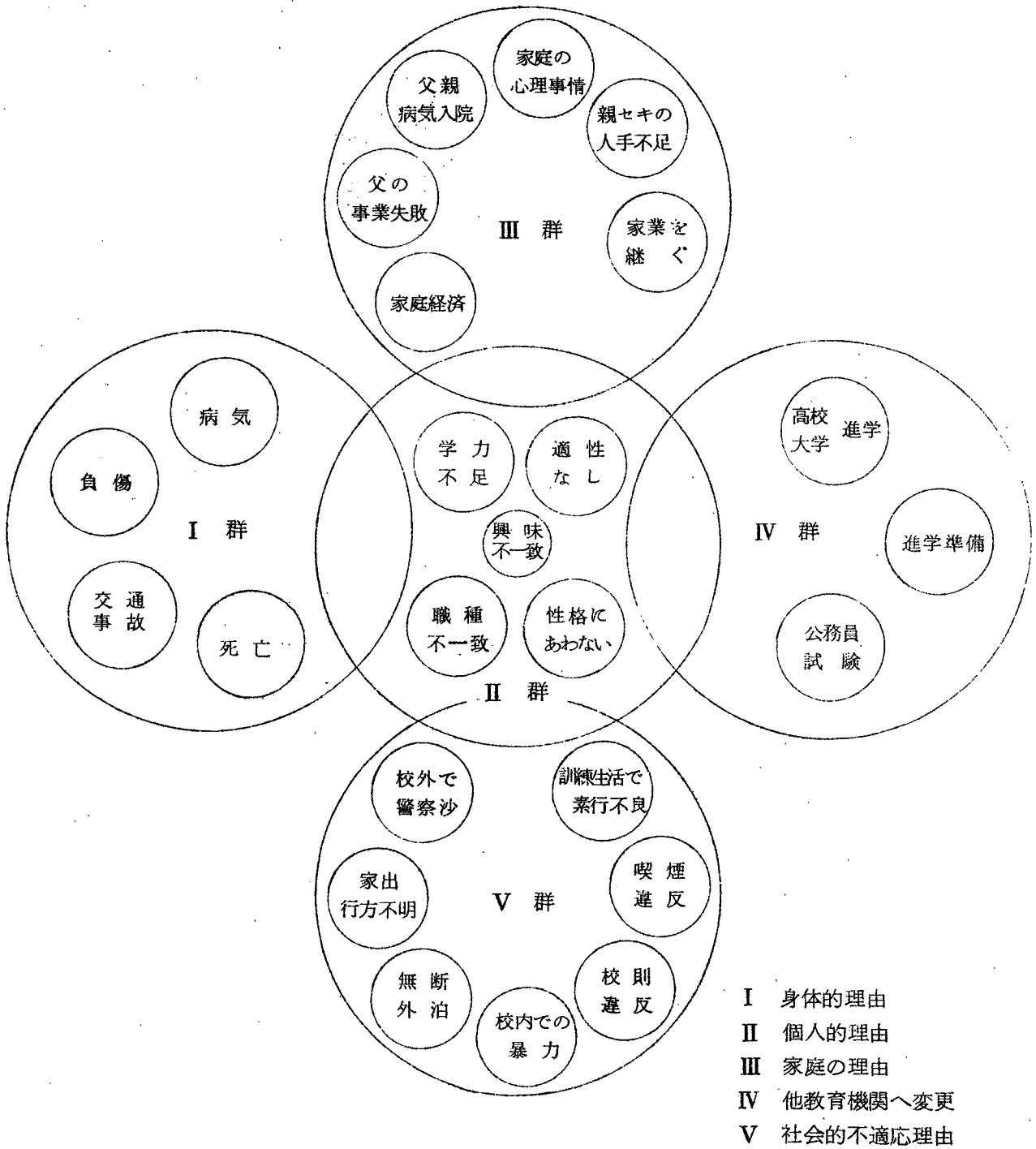
第Ⅱ群<個人的な問題が前面にだされている事例>としては、㉕ 学科、実技とも著しく劣った、㉖ 興味が無い、希望の科ではない、㉗ 不適性、㉘ 大工など他の職業につきたい、㉙ 工業的領域の職種に興味が無い、である。

第Ⅲ群<家庭環境が主たる原因>の群としては、㉚ 家庭経済の困窮、㉛ 父の事業失敗、㉜ 父親、兄など保護者の病気入院、㉝ その他家庭の諸事情、㉞ 親戚、近親者の工場人手不足、㉟ 家業である農業の手伝、㊱ 家業を継ぐ、㊲ 会社委託生、である。

第Ⅳ群<他の教育機関への進路変更>の群としては、㊳ 高校への進路変更、㊴ 大学への進路変更である。

第Ⅴ群ではいわゆる<社会的不適応>である。この群としては、㊵ 校外で補導、㊶ 家出、行方不明、㊷ 無断外泊、㊸ 校内での暴力事例、㊹ 喫煙違反、㊺ 校則違反、㊻ 授業態度悪く、訓

練生活不良、⑫いざらくなって中退、である。



第24図 中退理由の分類

2) 各群ごとの人数はつぎのごとくである。

第Ⅰ群が9.7%、第Ⅱ群が18.7%、第Ⅲ群が18.7%、第Ⅳ群が4.9%、第Ⅴ群が25.2%である。

そして、中退理由がわかりにくいものを第Ⅵ群とすれば、それは22.8%である。

(訓練中、後期の分析より)

3) 中退理由は表現としては一つになっても、多くの事例において、いくつもの理由が複合されて中退という行動に結びついている。

4) 中退行動は個人的要因と社会的要因との作用関係から生じるもので、中退理由をこれらの一方に規定することはむずかしい。

5) 訓練初期には第Ⅴ群社会的不適応による中退は、訓練中、後期に比較して少ない。ゆえに、訓練初期には第Ⅰ群から第Ⅳ群までの中退に留意する必要がある。

6) 中退経過はその理由により様々であるが次のように分けられる。

- ① 原因不明で欠席が多くなって中退する場合
- ② 原因不明で突如として中退する場合
- ③ ある原因があって、突如として中退する場合

7) 中退経過として欠席が一つの前徴になる場合が多い。

その欠席が多くなる型は次のごとくである。

- ① 中退を訓練生自身は決意して、とどけ出をしないために自然に欠席が多くなった場合
- ② 中退を決意しないが、欠席がちになって登校するのが気まずくなっている場合
- ③ 欠席がしばしばあって、心配している間に連続して無断欠席が生ずる場合
- ④ 訓練初期から欠席が多くて、再三の注意にもかかわらず、欠席があらたまらない場合